

2024年2月5日

各位

会社名株式会社リボミック
代表者名代表取締役社長中村義一
(コード番号: 4591東証グロース)
問合せ先財務経理部長今井利哉
<https://www.ribomic.com/contact.php>

リボミックと北海道大学との ANCA 関連血管炎に関する 共同研究契約締結のお知らせ

株式会社リボミック（東京都港区、代表取締役社長 中村義一）と国立大学法人北海道大学大学院保健科学研究院（北海道札幌市、研究院長 矢野理香、研究代表者 教授 石津明洋）は、この度、リボミックの所有するアプタマーの ANCA 関連血管炎^{註1}に対する薬理作用を検討するための共同研究契約を締結しましたのでお知らせします。

多くの自己免疫疾患において自己抗体の関与が示唆されており、リボミックは自己抗体の産生に重要な役割を果たす生体シグナル分子を阻害するアプタマーを非臨床開発ステージのパイプラインに所有しています。したがって、これらを活用することにより自己抗体が原因となる自己免疫疾患に対する効果的な治療薬を創製できると考えています。本共同研究では自己抗体が原因となる自己免疫疾患の一種である ANCA 関連血管炎を対象疾患として、リボミックの所有するパイプラインが治療効果を示すことができるか検討いたします。

リボミックは、核酸医薬の一種である「アプタマー医薬」の開発を目的とするバイオベンチャーであり、血液中のタンパク質であるサイトカインや増殖因子等の生体シグナル分子に対して優れた阻害活性を有する化合物を作製することができます。また、北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野 病理・免疫検査学研究室の石津明洋教授らのグループでは、ANCA 関連血管炎の動物モデルを作製し、様々な薬剤の薬理作用を評価した実績があります。このたび両者は、それぞれの強みを活かしてアンメットメディカルニーズの存在する ANCA 関連血管炎に対する治療・予防薬の研究開発を共同で進めるため、本契約の締結に至りました。本共同研究によって自己抗体産生やそれに伴う炎症反応を抑制することを示すことができれば、ANCA 関連血管炎のアンメットニーズを満たす薬剤の開発につながるとともに、他の自己免疫疾患に対する適応拡大も期待されます。

本契約の締結に伴い、リボミックは北海道大学大学院保健科学研究院に対して研究費を支払いますが、本件による 2024 年 3 月期業績への影響は軽微です。

註¹ ANCA 関連血管炎は、好中球細胞質成分に対する自己抗体 (anti-neutrophil cytoplasmic antibody: ANCA) が産生され、この自己抗体によって活性化された好中球が血管壁に炎症を起こし、腎臓をはじめとする様々な臓器・組織で血流障害や壊死が引き起こされ、治療が遅れると臓器の機能障害が残ることのある難治性疾患です。標準療法ではグルココルチコイドと免疫抑制薬を併用した治療法が用いられますが、本疾患は長期間の治療が必要であり、グルココルチコイド、免疫抑制薬ともに長期の使用による副作用リスクが指摘されていることから新たな治療薬が求められています。

以上

以下余分

リボミックでは自己抗体産生を抑制する手段として、抗体医薬品に比べてアプタマーが有用だと考えております。

この自己抗体産生には様々なサイトカインシグナルが重要であると考えられています。

・リボミックでは免疫反応の制御に関わるサイトカインシグナル分子に対して複数のアプタマーを取得し開発を進めております。(ST2、IL21, IL17)

新規アライアンスの獲得につながると期待しております。